

初級者対象の日本語反転授業：地域の日本語教室への提言とともに

小山, 悟
九州大学留学生センター：准教授

<https://doi.org/10.15017/7343631>

出版情報：九州大学留学生センター紀要. 33, pp.1-25, 2025-03. International Student Center, Kyushu University
バージョン：
権利関係：



初級者対象の日本語反転授業

— 地域の日本語教室への提言とともに —

Flipped Japanese Classroom for Beginners A Proposal for Community Japanese Language Classes

小 山 悟*

〈要旨〉

本稿は筆者が担当する九州大学大橋キャンパス日本語初級クラスの実践報告であり、小山（2020）の続報（実践編）である。本コースは学習時間が1学期30時間しかなく、既存の教科書をそのまま使うことはできない。そこで、小山（2020）では「文法は規則と表現の2つに分けて考える」と「語彙は共有語彙と個別語彙に分けて考える」の2つを軸に本コースの実情に合った教材（シラバス）の素案を示した。しかし、授業の進め方については「予習先行で行う」という以外、具体的な提案はできていなかった。本稿ではまず、当時の教材（シラバス）がその後の実践を経てどう変わったのかについて報告し、次に、その教材（シラバス）に基づいて現在どのような授業を行っているのかについて報告する。ここでのキーワードは「反転授業」である。その後、本授業を受講した学生の評価と見学した日本語教員の感想・コメントについて報告し、最後に、同じような環境で日々試行錯誤している地域の日本語教室の教員に向けた提言を述べたい。

キーワード：反転授業、学びのサイクル、地域の日本語教室

1 本報告の背景

本報告は小山（2020）で提案した「日本語初級クラスのシラバスデザイン」の続報（実践編）である。

筆者が担当する大橋キャンパスの日本語授業は、芸術工学府に所属する大学院留学生向けの課外授業として行われているものであるが、予算等の問題もあり、授業時間数は各学期30時間（90分×週2回×10週間）と少なく、レベルも4つしかない（表1）。そのため、「初級1」以外には学習者間のレベル差が大きく、どの教員も対

応に苦慮している。加えて、受講者も学位取得を目指す正規学生（研究生を含む）もいれば、建築デザインの勉強にきた短期留学生や外国人教員もいるというように多様で、唯一共通するのは「日本語学習が来日の主目的ではない」という点である。日本語学習に対する意欲は一定程度あるものの、ゼミでの発表や入試が近づけば学業優先となり、途中で辞めてしまうことは珍しくなく、学会出張や研修旅行などで出席できないことも少なくない。実態としては学内に設置された「地域の日本語教室」と言ってよいであろう。

*九州大学留学生センター准教授

表1 大橋キャンパスの日本語授業

コース	授業内容	クラス数
初級1	総合	週2回×1
初級2	総合	週2回×1
中級	会話／作文・文法	週1回×2
上級	会話／作文	週1回×2

中でも難しいのが「初級1・2」で、2学期60時間で教えられる教科書がないというのが理由の1つである。既存の教科書の多くは学習時間を250～300時間と想定しており、オーソドックスな使い方をしたのでは4分の1も進まない¹。とはいえ、覚えるべき語彙を絞ったり、重要とは言えない部分を飛ばして先へ進むというのも難しい。初級の教科書の多くは積み上げ式の教授法を採用しており、前の課で学習した文法や語彙が一定程度定着していることを前提に次の課を学習する仕組みになっている。そのため、そこで学ぶはずだったものがその先の課に既習事項として出てくれば、結局は教えざるを得ないからである。受講者の大半が半年または1年の短期留学生だったなら、『NIHONGO FUN & EASY』のようなサバイバル会話中心の教科書を使うのも一案であるが、初級2のクラスには学位取得を目指す大学院生が毎学期半数近く（またはそれ以上）いるため、その学生たちのことを考えれば、ある程度の知識の積み上げは必要であろう。「ならば、60時間で無理なく教えられる教材を自前で用意しよう」と考え、その素案を示したのが小山（2020）であった。

2 小山（2020）で述べたこと

2-1 学習内容を見直す

素案を作るにあたって最初に行ったのは「学

習内容の見直し」である。『JF 日本語教育スタンダード』（国際交流基金 2017）では、初級に相当する「A1」と「A2」の到達目標を以下のように定義している²。

【A1】

- ・具体的な欲求を満足させるための、よく使われる日常表現と基本的な言い回しは理解し、用いることもできる。
- ・自分や他人を紹介することができ、どこに住んでいるか、誰と知り合いか、持ち物などの個人的情報について、質問をしたり、答えたりできる。
- ・もし相手がゆっくり、はっきりと話して、助け船を出してくれるなら簡単なやり取りをすることができる。

【A2】

- ・ごく基本的な個人的情報や家族情報、買い物、近所、仕事など、直接的関係がある領域に関する、よく使われる文や表現が理解できる。
- ・簡単に日常的な範囲なら、身近で日常の事柄についての情報交換に応ずることができる。
- ・自分の背景や身の回りの状況や、直接的な必要性のある領域の事柄を簡単な言葉で説明できる。

一方、表2は初級の代表的な教科書3冊の学習内容を示したものである。最も軽い『げんき』でも132の文型と1,700の語彙、317の漢字を学習することになっているが、果たしてこれほど多くの文型や語彙を学ばないと、「身近で日常の事柄について情報交換したり、自分の背景や身の回りの状況を説明したりできる」ようにならないのであろうか。

この疑問の背景にあるのは山内（2009）の調査結果である。山内は『みんなの日本語』で学習する文型・文法が実際のレベルの学習者の発話に頻繁に現れるのかを KY コーパスを使って分析し、「初級文法とは丁寧形の文法、つまり、普通形を作らなくて済む文法である」（山内 2009: 47）と結論づけている。要するに、丁寧形の文法（『みんなの日本語』で言えば1～13課

で学習する文法) さえ使いこなせれば、中級(下)レベルの会話はできるということである。

表2 初級の代表的な教科書の学習内容³

	みんなの日本語	げんき	できる日本語
想定学習時間	300時間	200～250時間	350時間
文型	約150	132	245
語彙	約2,000	約1,700	約1,900
漢字	536	317	326

語彙についても同様である。語彙は多ければ多いほどいいというのは確かであるが、一方で必要な語彙は一人一人違うというのも事実である。例えば、教科書の第1課で自己紹介の練習をする時、趣味に関する語として「映画」や「音楽」「旅行」を教えることに異論を唱える教員はいないであろう。趣味以外の話題・文脈でも頻繁に使う語だからである。しかし、「刺繍」や「山登り」はそれを趣味とする学生にとっては必須語であるが、教科書に載せて学習者全員に覚えさせる必要はなく、そのような語まで取り上げていては、覚えるべき語彙の数は無限に広がってしまう。

そもそも「外国語」は学習の初期段階における記憶の負担が大きい。中でも日本語はひらがなとカタカナだけでおよそ100字あり、加えて300字程度の漢字も覚えなければならない。最低限必要な文型・文法だけを先に学習し、文字や語彙は後からゆっくり教えようと思っても、積み上げ式の教科書では文字と語彙もいっしょに学ばなければ先に進めない。非漢字圏学習者への配慮が見られる『げんき』でさえ、アルファベット併記は最初の2課だけで、それまでにひらがなもカタカナをマスターしなければならない、語彙も87語⁴(1課で30語、2課で57語)

覚えなければならない。

そこで、独自教材の開発にあたっては「あれもこれもと欲張らず、週に1度授業の前に60～90分程度自学自習すれば無理なくついていける(完走できる)こと」を基本方針とし、学習内容についても以下のように方針を定めた。

1. 文法は「規則」と「表現」の2つに分けて考え、前者に重点を置く。
2. 語彙は「共有語彙」と「個別語彙」の2つに分け、前者を450語以内に抑える。
3. 話題は各課で学習する文型・文法の使用が不可欠となるものを選ぶ。
4. 文字の学習は急かさず、じっくりと取り組む。

以下、詳細を述べる。

2-2 文型・文法

意識的な文法学習なしに言語を習得することは、子どもは言うまでもなく成人でも十分に可能である⁵。しかし、それには相当量のインプットに触れる必要があり、学びも偶発的・付随的にしか生じないため、効率が悪く時間もかかるという難点がある。それゆえ、本授業のように学習時間が限られている場合には、効率よく習得するための「補助」として文法学習は必要不可欠と考える。

問題は何をどこまで学ばせるかで、本授業では以下の2点からこの問題を考えた。1つは、日本語の初級文法には認知的な処理の観点から「その内側にあるものは教える順番を変えても大きな問題はないが、それを超えて順番を入れ変えることはできない」という大きな「壁」が3つあるという点である⁶。1つは「丁寧形の文法」と「普通形の文法」との間にある壁で、も

う1つは「単文」と「複文」の間にある壁である。『みんなの日本語』で言うと、前者は13課と14課の間、後者は20課と21課の間にあり、ここまでは「形」の学習という言葉でまとめることができるであろう。そして3つ目が、どの教科書でも境界がはっきりしないのだが、「形」の学習と、それをどのような場面や意図で使うかという「機能」の学習との間にある壁である。例えば、受身文である。受身形の活用を覚え、受身文を作れるようになるだけなら「形」の学習と言えるが、何らかの被害を受けたことを強調するために使うという点に着目すれば「機能」の学習ということになる。

もう1つは、文法は「規則」と「表現」の2つに分けられるという点である。例えば、「書いてください」と言えるようになるためには、まずは「書く」という動詞をテ形に変換できなければならない。そして、それには日本語の動詞が大きく五段動詞と一段動詞の2つに分けられることを知っていなければならない。教室用語として理屈抜きに覚えさせる場合を除けば、活用の「規則」に関する知識は必要不可欠である。しかし、それは裏を返せば、テ形の作り方をさえ知っていれば、そこに「ください」や「います」、「もいいですか」をつけるだけで「表現」の幅は大きく広がるということでもある。同様に、普通形の作り方をさえ知っていれば、文をつなぐことができ、連体修飾節やトキ節も使えるようになる。

以上の2点を踏まえ、本授業では、従来の積み上げ式教科書に見られる文型・文法の提示順序に基本的に従いながら、「規則」の学習・習得に重点を置き、初級1では丁寧形の活用規則を、初級2ではテ形やナイ形、受身形などの動詞の活用規則を中心に学習を進めることにした(表3)。

表3 初級1と2の学習内容(小山 2020)

課	初級1	初級2
1	名詞文	辞書形
2	これ・それ・あれ	テ形
3	存在文	ナイ形
4	動詞文Ⅰ	タ形
5	動詞文Ⅱ	可能形
6	助詞	受身形
7	イ形容詞	使役形
8	ナ形容詞	普通形
9	形容詞の過去形	意志形
10	比較	条件形

2-3 語彙

一方、語彙については、文法と違って「AよりBを先に教えることはできない」というような階層性がないという点と、先にも述べたように「必要な語は一人一人違う」という点を考慮し、「個別語彙」と「共有語彙」の2つに分けて考えることにした。前者は学習者個々のニーズに合わせて各自が自主的に覚えるべき語のことで、後者は授業を円滑に進めるために学習者全員に覚えもらう語彙のことを言う⁷。教科書の例文や練習問題、ペアワークは共有語彙だけを使って作るようにし、初級1は250語、初級2はプラス200語を上限とした⁸。使える語彙が限られるため、例文は同じような内容のものばかりになり、教材としては面白味に欠けるが、反面、同じ語に何度も出くわすことで、ある程度自然に覚えられるというメリットもある。

2-4 話題

滞在期間の短い短期留学生のことを考えれば、「デパートで」や「居酒屋で」のような日常生活に直結した場面会話中心の方が喜ばれるのではないかと考えた。しかし、先にも述べたように、初級文法には認知的な処理の観点から見

て3つの大きな壁があり、「理解しやすい順番」というものがある。本授業の主目標を「規則」の学習・習得に置くのであれば、話題の選択においてもその課で学習した規則の使用を促すものを選んだほうが学生たちの負担も少ない。その上で「学生たちが身近な日本人に聞かれそうなことは何か」「そこに何がしかの日本事情的な話題を盛り込めないか」と考えた。

2-5 文字

初級1は非漢字圏出身の短期留学生が受講者の大半を占めているということもあり、記憶の負担を減らし、規則の学習に一定程度注力できるようにするために、ひらがなの読み書きは学期の前半に数週間かけてゆっくりと習得させることにした。また、カタカナも読みの練習だけを学期の後半に行うことにした。そのため、学習者に配布する「教科書」も以下のように第3週までは例文をアルファベット表記優先で書くようにし、文字も少し大きくした⁹。第4週からは表記の順番を入れ替え、第7週からはひらがな表記だけにした。

第1週～第3週

Watashi wa TANAKA Keiko desu.

わたしは たなか けいこ です。

(I am Keiko TANAKA.)

第4週～第6週

わたしは まいにち べんきょう します。

Watashi wa mainichi benkyo: shi-masu.

(I study every day.)

第7週～第10週

これは おいしく ないです。

(This is not delicious.)

漢字については日本語への興味・関心を高めるため、日常生活でよく見かける漢字を毎週4～6字ずつピクトグラムのように記号として学習させることにした。以下(図1)は独自に作成した漢字学習用の教材で、下部のイラストをヒントに各漢字(注・危・禁・止)の意味を推測し、選択肢(a. stop, b. dangerous, c. caution, d. prohibition)の中から選ぶというものである。



図1 漢字学習プリント

2-6 授業の進め方

授業は週2回の授業を「文法」クラスと「会話」クラスに分けて行い、前者ではMoodleにアップロードされた教科書の文法説明(図2)を読み、練習問題の答えを解答用紙(図3)に記入してくることを宿題として義務付けた。授業で教師の説明を聞く前に一度自分で考えてみることで疑問が生まれ、その疑問を授業で解消することで理解がより深まると考えたからであ

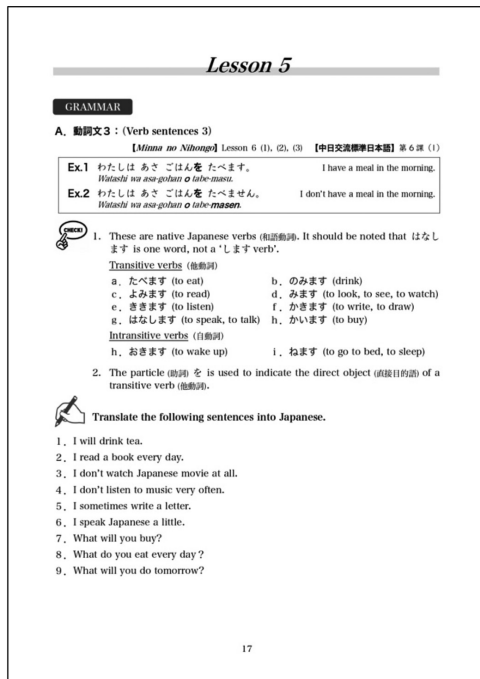


図2 初級1教科書(第5課)

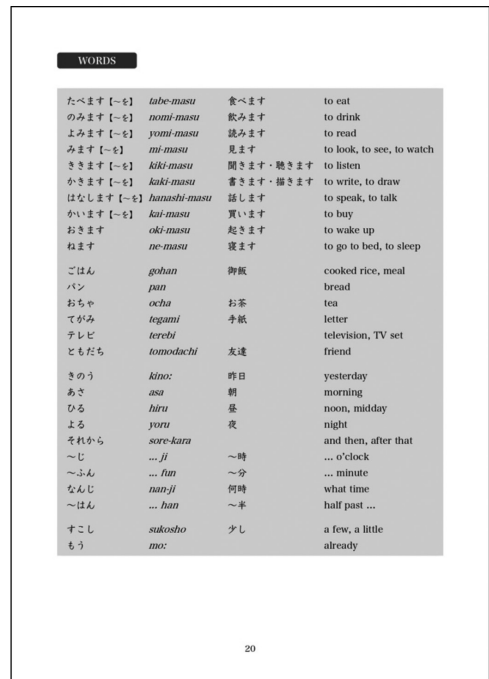


図4 教科書語彙リスト(第5課)

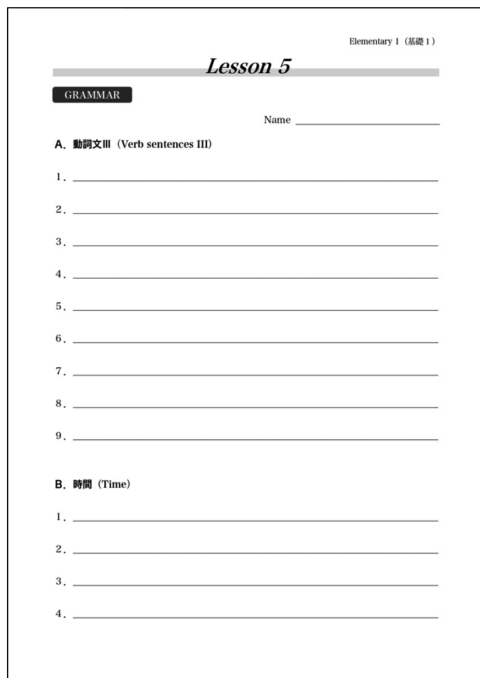


図3 解答用紙(初級1:第5週)

る。また、問題は英文和訳が中心で、各課の最終ページにある語彙リスト(図4)を参照すれば解けるようになっている¹⁰。なお、解答は「アルファベット表記可」とした。練習のために学習途上のひらがなで書かせたいところであるが、それを義務付けると、答えを書くだけで時間がかかり、学生たちの意識が文法より文字を書くことに向いてしまう。そのため学生たちには「今学期の終わりまでにひらがなで書けるようになればいい」と伝え、まずは文法の理解に注力できるようにした。そして授業では、筆者が補足説明をしながら練習問題の解答をした後、市販のリスニング教材やインフォメーション・ギャップ・タスクを使って活動中心で進めることを提案した。ただし、具体的に何をどうするかについては述べておらず、今後の課題として残された。

以上が小山（2020）で述べた内容（概要）である。しかし、その後実際に授業を始めてみると、いくつか改善すべき点が出てきたため、今回授業内容を再度見直すとともに授業の進め方についても改めて検討することにした。

3 学習内容の見直し

表4は改訂した2024年度後期のシラバスである。初級1の主たる学習内容はこれまでどおり「丁寧形の活用」で、提示順序を一部変更した程度で大きな変更はない¹¹。初級2についても「動詞の活用規則」という方針に変更はないが、受身形・使役形・意志形・条件形の4つを外し、学習内容を大幅に削減した。代わりに、初級1で学習していたマス形を使った文型の一部（例、「～ませんか」「～ましょう」など）を第1課で学習し、テ形・タ形・普通形の3つを2週に分けて学習することにした。結果、本授業の学習範囲は初級1は丁寧形の活用規則（最初の壁まで）、初級2は普通形の活用規則（第2の壁まで）となった（巻末資料1・2）。

表4 初級1と2の学習内容

課	初級1	初級2
1	名詞文	マス形
2	これ・それ・あれ	辞書形
3	存在文	テ形Ⅰ
4	動詞文Ⅰ	テ形Ⅱ
5	動詞文Ⅱ	ナイ形
6	助詞	タ形Ⅰ
7	イ形容詞	タ形Ⅱ
8	ナ形容詞	可能形
9	形容詞の過去形	普通形Ⅰ
10	比較	普通形Ⅱ

一方、語彙については初級1が200語から243

語に増えたが¹²、初級2は196語に抑え、全体で439語とした（巻末資料1・2）。

4 授業の進め方に関する新たな工夫

4-1 反転授業

授業の進め方については、「反転授業」（バグマン&サムズ2014）の考え方を新たに取り入れた。

反転授業は、アメリカの高校で化学を教える2人の教師が、部活動の遠征試合などで授業を休まざるを得ない学生たちのために実験の様子をビデオカメラで撮影し、それをいつでもどこでも見られるようにしたのが始まりである。その後、2人は「それまで学生たちの目の前であるのが当たり前だと思っていた実験を録画し、それをクラス全員が事前に視聴してくれたなら、これまで十分な時間をかけられなかった実験後の応用課題にじっくりと取り組ませることができる」という点に気づく。こうして生まれたのが、文字どおり、授業と自宅学習の役割をひっくり返した反転授業であった。これを日本語の授業に当てはめると、それまで授業であるのが当たり前だと思っていた文型導入を事前に文法書を読むなどして予習させれば、より多くの時間を会話などの応用練習に使えるようになるということである¹³。

以下はスリーエーネットワークのホームページに掲載された『みんなの日本語』の指導手順である¹⁴。

- ①文型1の新出語彙の導入
- ②文型1 導入・練習A・B・C
- ③文型2の新出語彙の導入
- ④文型2 導入・練習A・B・C
- ⑤会話表現の導入

⑥会話

⑦問題（宿題）

これは Audio-Lingual Method の「①理解→②模倣→③反復→④変化→⑤選択」という指導手順に沿ったもので、従来型の授業では学習者に予習させることは想定しておらず、新たな学習はその課の新出語彙と文型を導入するところから始まる¹⁵⁾。授業後に行うのはその日の復習（⑦問題）や語彙の暗記、文字の練習などである。

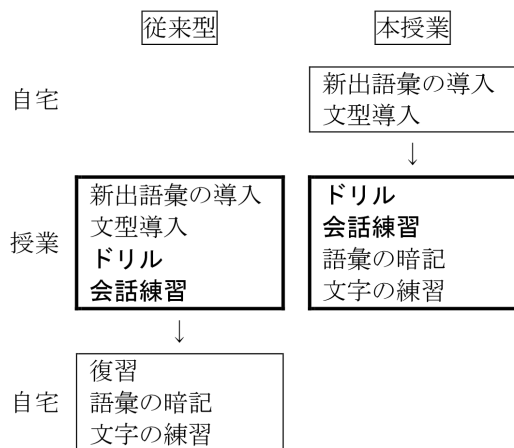


図5 従来型の授業との比較

現実問題として、週に1～2度クラスに来るだけで日本語を上達させることは難しい。そのため、何某かの自学自習は必要である。小山(2020)ではそれを復習ではなく予習に使うことを提案したのだが、語彙の暗記や文字の練習は相変わらず学生たちの自助努力に委ねていた。しかし、その努力ができる学生とそうでない学生の差は大きく、学期の後半になってもひらながなが読めない学生が何人かいた。そこで、現在はそれを授業内で行うようにしている（図5）。文法の予習を義務付ける一方で、自宅学習の一部を授業に取り込むことで、授業と自宅学

習の重点・役割を反転させたわけである。それが、今回は使わなかった「反転授業」という用語を本稿で使用した理由でもある。

4-2 反転授業の利点

実感レベルではあるが、反転学習の利点は3つあるように思われる。1つは授業で教師の説明を聞く前に一度自分で考えてみることで「理解がより深まる」という点で、これは前稿でも述べた。

2つ目は文型導入後に行う「言語活動の効果が高まる」という点である。従来型の授業では新たな文型と語彙を学習した直後にドリルをし、ペアワークなどの運用練習へと進んでいた。理解の早い学生たちはそれでも問題なかったが、そうではない学生たちは完全には理解できないまま、どこかモヤモヤした気持ちを持ちながら練習していたように感じられた。しかし、予習で生じた疑問を授業の冒頭で解消すれば、すっきりとした状態でその後の練習に取り組むことができ、練習の効果も高まると期待される。

3つ目は「自学自習の負担を減らせる」という点である。何かを覚えるというのは非常に単調で退屈なものである。自分が受験生だった時のことを思い返してみても、通学時や昼休みなど、ちょっとでも時間があればコツコツと英単語を暗記する努力ができたのは、受験という人生を左右する一大事が目前に迫っていたからであって、それと同じ努力を本授業の受講者に求めることはできない。彼らにとって最優先事項は学位の取得や建築デザインの勉強であって、少しでも時間があれば、その時間を自分の研究に使おうとするのは当然であろう。一方、文法の予習は短時間で集中して行えるため、例えば「日曜日のこの時間だけは日本語の学習に使う」というように割り切って取り組むことができ

る。また、説明を読んで文法規則を学習し問題を解くというのはどこかパズル的な要素があり、学生たちも楽しんで行えるであろうし、他の学生と相談しながら行うこともできる¹⁶。

4-3 暗記は授業内で

問題は、語彙の暗記や文字の読みの練習を授業内の限られた時間でどう行うかである。語彙については先に述べたように覚えるべき語（共有語彙）を大幅に減らし、練習問題や例文に同じ語彙が何度も出てくるようにすることで、ある程度自然に覚えられるようにした。また、教師が読み上げた語彙を聞いて意味（英語）を選ぶクイズを各課の終了時（または終了後）に行うことにした¹⁷（図6）。

WORDS (Lesson 5)		Elementary 1 (初級1)	
A. Verbs			
1. ()	2. ()	3. ()	4. ()
5. ()	6. ()	7. ()	8. ()
9. ()	10. ()		
a. to buy	b. to drink	c. to eat	d. to listen
e. to read	f. to see	g. to sleep	h. to speak
i. to wake up	j. to write		

1

図6 語彙タスク（初級1：第5課）表面

ひらがな（あ行～や行）

Listen to the nonwords and choose the correct answer.

1. a あおの	b あのお	c おのあ	d おあの
2. a さきち	b さちき	c ちきさ	d ちさき
3. a てどそ	b てそど	c どそて	d どてそ
4. a うつつ	b うつう	c つうう	d つうつ
5. a くしへ	b へくし	c へしく	d くへし
6. a いここ	b いいこ	c こいい	d ここい
7. a よけま	b けよま	c よまけ	d けまよ
8. a えそえ	b そえそ	c そそえ	d ええそ
9. a たこに	b こにた	c たにこ	d こたに

図7 ひらがなタスク（あ行～や行：表面）

文字については、まず、読み書き以前の「文字の認知」から練習を始め、毎回五十音表を2行（10文字）ずつ覚えさせることにした。具体的には「い・こ」や「さ・き・ち」など、形のよく似たひらがなで無意味語のセットを作り（図7）、教師が読み上げた語を選ぶという練習を毎回授業の冒頭に行う¹⁸。

4-4 予習の予行練習

予習を徹底させるために新たに始めたのが「予習の予行練習」である。これは、本来は授業前に行うべき文法の予習を、第1週の授業で一度だけ授業内で行うというもので、学生たちは1人黙々と練習問題を解き、頃合いを見計らって答え合わせを行う。結果として授業時間の大半を（他の学生とほとんど交流することなく）個人学習に費やすことになるのだが、それがこちらの意図するところで、授業の終わりに学生たちに以下のように話している。

「これでわかったと思いますが、授業で文法を勉強するのは時間の無駄です。みなさんは文法を勉強するためではなく、日本語を話せるようになるためにこのクラスに来ているのではありませんか？ ならば、文法は来週からうちで勉強し、クラスではたくさん話す練習をしましょう」

そして、翌週からは宣言どおり文型導入はせず、答え合わせから始める。授業の流れ（事前は何をし、授業で何をするか）を理解することで主体的に学ぶ姿勢を身につけさせ、ゼミの発表準備などでたまに出席できないことがあったとしても、自学自習によって補い、途中でついていけなくなるというようなことがなくなるようにしようと考えた。

5 授業の流れ：初級1クラス

初級1の2024年度後期の受講者は19名で、全員が建築デザイン等の勉強にきた短期留学生である。この中には既習者が4名（全員非漢字圏）含まれている¹⁹。出身地域別の内訳は非漢字圏出身者が14名、漢字圏出身者が5名である。

授業は以下の3点を目標に進めた。

1. 丁寧形の活用をマスターすること
2. 助詞の基本的な意味と使い方を理解し、文が作れるようになること
3. ひらがなの読み書きとカタカナの読みができるようになること²⁰

以下、第5課の「動詞文2」を例に進め方の手順について解説する。

第5課（動詞文2）の場合

1日目

- ①文字の読みの練習
- ②予習の答え合わせ
- ③タスクA
- ④タスクB

2日目

- ①文字の読みの練習
- ②語彙の確認
- ③トピック会話
- ④漢字の学習
- ⑤その他

なお、小山（2020）では1日目を文法クラス、2日目を会話クラスとしていたが、現在はそのようなはっきりとした区分は行っていない。

1日目

①文字の読みの練習

授業では最初にひらがな（カタカナ）の練習を行う。学生たちには授業開始前のコースオリエンテーションで国際交流基金のEラーニングシステム「MINATO」(<https://minato-jf.jp>)にアクセスし、ひらがなを自学自習しておくよう指導しているが²¹、習得状況は学習者によって異なる。そこで、4-3で述べた「文字の認知」に焦点を当てたタスク（図7）を使い、毎回五十音表を2行（10文字）ずつ覚えさせていく。スケジュールは巻末の資料1に示したとおりである。

ひらがな（ここでは「あ行～や行」）の定着が確認できたら、次に語彙レベルで読みの練習を行う。図8のタスクシートを配布し、ペアまたはグループで一語一語読む練習した後、スライド（図9）を見ながら全員で答えを確認する。ここに出てくる語彙の中には共有語彙の範囲外のものもあるが、学生たちには「これはひらがな

ひらがな語彙（あ～や行）				
Read aloud in pairs.				
ここ	そこ	あそこ	せかい	うみ
やま	はな	いぬ	ねこ	むし
うち	へや	いけ	えき	みせ
ちかてつ	ふね	なつ	あき	ふゆ
あめ	ゆき	あさ	のきもの	にく
さかな	やさしい	すし	おかし	おさけ
つくえ	いす	かさ	くつ	くつした
ふく	かお	あし	ひと	ちち
はは	あね	あに	むすめ	むすこ
うえ	した	すき	あつい	さむい
あたたかい	たかい	やすい	すこし	あか
あお	こたえ			

図8 ひらがな語彙タスク（あ行～や行）



図9 ひらがな語彙タスク（スライド）

なの読みの練習であって語彙の練習ではないので、これらの語の意味を覚える必要はない」と伝えている²²。

②予習の答え合わせ

文字の読みの練習が終わったら、次は学生を1人ずつ順番に指名しながら予習の答え合わせをする²³。その際、PowerPointを使ってスクリーンにも正解を投影し、学生たちはそれを見ながら自分で(図3の解答用紙に書いた)答えを添削する。間違えた時や疑問が生じた時はその場で質問し、疑問を解消する。

③タスクA

疑問が解消されたら、文法フォーカスのタスクを使ってその日学習した文型の定着を図る。図10は「曜日」と「時間」、「～から～まで」の使用を促すタスクで、学生たちはこれを手元に

置いて(相手から見える状態で)、互いに質問し合い、空欄を埋める。この間教師は介入せず、学生たちは質問がある時に教師を呼ぶ。

見た目的には Information-gap task であるが、していることはドリル(例、『みんなの日本語』の練習Bや練習C)と変わらない。違いは、教科書を見ながら教師主導で練習するのではなく、教師の手を離れ、他の学生とペアで、時に相談しながら練習する点である。そのため、学生たちには自主的な会話の練習をしているように感じられるようである。

④タスクB

タスクAが終わったら、もう1つ別のタスクを行う。図11は「～時に～ます」と「～時から～時まで～ます」という2つの文型の使用を促すタスクで、「田中さんは何時に起きますか」、「何時から何時まで勉強しますか」と聞き合

Elementary 1 (初級1)

Student A

1. Ask and answer questions. Fill in the blanks.

Ex.  にほんご (nihongo) Wednesday 10:00-12:00 day

1.  りょうり (ryouri) day

2.  いけばな (ike-bana) Monday 13:00-14:30 day

3.  ダンス (dance) day

4.  さどう (sa-dou) day

5.  しゅうじ (shuji) Friday 17:00-19:00 day

6.  とうげい (toge) day

7.  カラオケ (karaoke) Sunday 14:00-15:30 day

Q: にほんごのクラスは なんようびですか。 [What day of the week is Japanese class on?]
Nihongo no kurasu wa nanyoubi desu ka? [It's on Wednesday.]
A: すいようびです。 [It's on Wednesday.]
Suiyoubi desu.

Q: なんじから なんじまでですか。 [From what time until what time?]
Nanji kara nanji made desu ka? [From 10 to 12.]
A: 10 じから 12 じまでです。 [From 10 to 12.]
Ju-ji kara juuni-ji made desu.

1

図10 タスクA (初級1:第5課)

Elementary 1 (初級1)

Student A

2. This is Ms. Tanaka's daily activities. Ask and answer the questions. Fill in the blanks.

2

図11 タスクB (初級1:第5課)

う。これも見た目的にはInformation-gap taskであるが、していることはドリルである。

以上が1日目の授業内容である。課によってはタスクA・Bの前にタスクの遂行に欠かせない語彙の確認をしたりすることもあるが、答え合わせが終わったら、「活動中心で授業を進める」という基本方針は変わらない。

2日目

①文字の読みの練習

2日目も1日目と同様、図7のタスクを使ってひらがなの読みの練習をするところから授業を始める。前回の正答率が低かった場合には同じタスクを再度行った上で次のタスクを行う。その後、ひらがな語彙の読みのタスク（図8）を行うのも1日目と同じである。

②語彙の確認

前の課（ここでは第4課）で学習した語彙の確認タスク（図6）を行う。

③トピック会話

この課の話題である「週末の出来事」について、自分が週末に実際にしたことを、前日のタスクで練習した「～時に～ます」と「～時から～時まで～ます」などの文型を過去形に変えて話す練習をペアで行う。時間に余裕があれば、ペアを変えて2～3度繰り返し練習する。

④漢字の学習

2～5で示した漢字タスク（図1）を使って、日常生活でよく見かける漢字の学習を行う。漢字に興味を持ってもらうための練習であるため、覚えることは要求しない。

⑤その他

最後に、時間に余裕があれば、ひらがなの書きの練習を行ったり、市販の教材を使ってリスニングの練習を行ったりする。

6 授業の流れ：初級2クラス

初級2の2024年度後期の受講者は12名で、内訳は非漢字圏出身者が7名、漢字圏出身者が5名である。短期留学生と正規学生（院生・研究生）が混在するクラスで、以下の3点を到達目標とした。

1. 動詞の活用（辞書形・ナイ形・テ形・タ形・可能形）がスムーズにできるようになること
2. 普通形の活用が一定程度スムーズにできるようになること
3. 「子供の時の夢と今の夢」や「日本へ来てからの生活の変化」などの身近な話題について辿々しいながらも話せるようになること

以下、第2課の「辞書形」を例に進め方の手順について解説する。

第2課（辞書形）の場合

1日目

- ①活用の練習
- ②予習の答え合わせ
- ③タスクA
- ④タスクB

2日目

- ①語彙の確認
- ②活用の練習
- ③タスクレビュー
- ④トピック会話
- ⑤その他

1日目

①活用の練習

授業は PowerPoint を使ってクラスで辞書形の活用を練習・確認するところから始める。

②予習の答え合わせ

活用がある程度スムーズにできるようになったら、初級1と同様、1人ずつ順番に指名し、予習の答え合わせを行う。その後学生の質問に答え、疑問点を解消する。

③タスクA

最初にこの課で学習する「〇〇さんの趣味は（辞書形）ことです」と「〇〇さんは（辞書形）のが好き／上手です」の2つの文型を使って自分の趣味や特技について話す練習を行う。学生たちはタスクシート（図12）を手元に置いて互いに質問し合う。その間教師は机間巡視を行い、学生の質問に答える。これも初級1と同じである。

④タスクB

次に、この課で学習する文型の練習と初級1で学習した文型の復習を兼ねたタスク（図13）を行う。テーマは「子供の時の夢と今の夢」で、タスクAで練習した「～は（辞書形）ことです」と「（辞書形）のが好きです」に加え、もう1つ「（辞書形）のは～です」を非過去と過去の両方で使わせる。また、初級1で学習した「～たいです」と「～ます／ですから」を使って、なぜそのような夢を持つようになったのかについても話させる。教師の役割はここでも机間巡視と、学生たちの質問に答えることが中心である。

Elementary 2 (初級2)

Student A

Work in pair. Ask and answer the questions.

○〇さんのしゅみは _____ ことです。
 ○〇さんは _____ のがすきです／じょうずです。

	しゅみ	すき	じょうず
たなか	?	?	?
なかもら	かいものします	おいしいもの たべます	ピアノ ひきます
やまもと	?	?	?
よしだ	えいが みます	しゃしん どります	おかし つくります
こが せんせい	?	?	?
いのうえ せんせい	ほん よみます	おんがく ききます	おしえます

1

図12 タスクA（初級2：第2週）

Elementary 2 (初級2)

Student A

Explain about current and childhood dream of each person.

	こどものとき		いま	
	ゆめは？	どうして？	ゆめは？	どうして？
たなか	バンや はたらきます	まいにち バン・たべます 【～たい】	せんせい なります	べんきょう おしえます 【おもしろい】
なかもら				
やまもと	ピアニスト なります	ピアノ ひきます 【すき】	アメリカ いきます	えいご べんきょうします 【～たい】
よしだ				
こが	がが なります	え かきます 【すき】	えいがのかいしゃ はたらきます	えいが つくります 【～たい】
いのうえ				

2

図13 タスクB（初級2：第2週）

2日目

①活用の練習

2日目も初日と同様、PowerPointを使って辞書形の活用を練習・確認するところから始める。その後、教師が読み上げた活用形を聞き、意味を選ぶ練習を行う（図14）。

Elementary 2 (初級2)

LISTENING

 1. Listen and choose the meaning of the words.

1. ()	2. ()	3. ()	4. ()
5. ()	6. ()	7. ()	8. ()
9. ()	10. ()	11. ()	

a. to buy	b. to come	c. to eat	d. to make
e. to play	f. to read	g. to speak	h. to swim
i. to teach	j. to wait	k. to watch	

図14 活用タスク（初級2：第2週）

②語彙の確認

次に、教師が読み上げた語彙を聞き、意味を選ぶ練習を行う。形式は初級1（図6）と同じである。

③タスクレビュー

1日目に行った2つのタスクの復習をするのがタスクレビュー（図15）である。中でもタスクBはこの課で学習した文型だけでなく、初級1で学習した「～たいです」などの文型も非過去と過去の両方で使うため、難易度がかなり高い。学生たちは悪戦苦闘しながらどうにかタスクを完遂するが、定着には程遠い状態である。そこで、タスクシートの文字だけを抜き出したハンドアウトを用意し、今度は正確かつ流暢に文が言えるようになるまで各自練習を行う。

従来の教授法では、小さな単位から大きな単

位へと練習が進むのが原則で、語から文、文から談話へと（教科書の文字を見ながら）ドリルを繰り返した後、最後にinformation-gap taskなどを使った会話練習をするのが一般的であった。しかし、本授業ではタスク練習をした後にドリルをするという逆の順序になっている。

Elementary 2 (初級2)

Lesson 2 Task Review

 Practice until you can say it fluently.

A. 今の夢 (current dream)

(1) のゆめは dic. form ことです。 My dream is

1. たなかさん、ゆめ、せんせい、になります (田中さん、夢、先生、なります)
2. なかむらさん、ゆめ、にほんごのせんせい、になります (中村さん、夢、日本語の先生、なります)
3. やまもとさん、ゆめ、アメリカ、いきます (山本さん、夢、アメリカ、行きます)
4. よしださん、ゆめ、いしゃ、になります (吉田さん、夢、医者、なります)
5. こがさん、ゆめ、えいがのかいしゃ、はたらきます (古賀さん、夢、映画の会社、働きます)
6. いのうえさん、ゆめ、としょかん、はたらきます (井上さん、夢、図書館、働きます)

(2) は verb-stem たいです。 I want to

1. たなかさん、せんせい、になります (田中さん、先生、なります)
2. なかむらさん、にほんごのせんせい、になります (中村さん、日本語の先生、なります)
3. やまもとさん、アメリカ、いきます (山本さん、アメリカ、行きます)
4. よしださん、いしゃ、になります (吉田さん、医者、なります)
5. こがさん、えいがのかいしゃ、はたらきます (古賀さん、映画の会社、働きます)
6. いのうえさん、としょかん、はたらきます (井上さん、図書館、働きます)

図15 初級2タスクレビュー（第2週）

④トピック会話

最後に、この課で学習した文型を使って、学習者自身の「子供の時の夢と今の夢」について話す練習をする。図16はその時配布しているハンドアウトである。1ページ目の冒頭に「子供の時の夢は何でしたか。どうしてですか」と「今の夢は何ですか。どうしてですか」という2つの質問があり、その下に「役に立つ表現」を「今の夢」と「子供の時の夢」の2つに分けて示し、モデル文を提示してある。

Elementary 2 (初級 2)

Lesson 2

TOPIC

子供の時の夢 (My Childhood Dream)

Answer the questions below.

Q 1. こどものとき、ゆめは なんでしたか。どうしてですか。
子供の時、夢は何でしたか。どうしてですか。
What was your dream when you were a child, and why?

Q 2. いまのゆめは なんですか。どうしてですか？
今の夢は何ですか。どうしてですか。
What is your dream now, and why?

役に立つ表現 (Useful Expressions)

A 今の夢 (current dream)

(1) わたしのゆめは dic. form ことです。 My dream is

(2) わたしは verb-stem たいです。 I want to

(3) dic. form のは adj. ですから。 because ...ing is
 dic. form のが 好きですから。 because I like ...ing.
 verb-stem たいですから。 because I want to

Read the paragraph.

1.  わたしのゆめは がっこうのせんせいに なることです。
こどもに べんきょうを おしえるのは たのしいですから。
私の夢は学校の先生になることです。
子供に勉強を教えるのは楽しいですから。

2.  わたしは しょうらい りょうこうがいしゃで はたらきたいです。
がいこくへ いくのは おもしろいからです。
私は将来銀行会社で働きたいです。
外国へ行くのは楽しいですから。

図16 トピック会話 (第2課)

⑤その他

時間的に余裕があれば、市販の教材を使ったリスニングの練習などを行う。

7 評価Ⅰ：受講者の感想

授業の最終日に Google Form を使って記名式で授業評価を実施した。初級 1 は受講者 19 名中 16 名がコースを完走し、既習者 4 名を除く 12 名中 11 名が回答した²⁴。また、初級 2 は 12 名全員が完走し、11 名が回答した。結果は以下のとおりであった。

①満足度と有用度

最初に「本授業にどの程度満足しているか」と「本授業はどの程度役に立ったか」の 2 点を 5 段階で評価してもらった。結果は表 5 のとおりである。

表 5 本授業の満足度と有用度

	初級 1		初級 2	
	満足度	有用度	満足度	有用度
5	11	10	10	10
4	0	1	1	1
3	0	0	0	0
2	0	0	0	0
1	0	0	0	0
平均	5.00	4.91	4.91	4.91

授業に満足した理由について尋ねたところ、初級 1 については「多くのことを学べた (知識量)」という回答が最も多かった。次に多かったのは「おもしろかった」や「説明が明確だった」「他の学生とたくさん話せた」などの教え方・授業内容に関する記述であった。

知識量	7 人
教え方・授業内容	5 人
クラスの雰囲気 ²⁵	3 人
進歩の実感	1 人

一方、初級 2 については「宿題が適量であった」や「説明に十分な時間をとってくれた」などの教え方・授業内容に触れた記述が一番多く、次に多かったのは「たくさん質問できた」や「プレッシャーがなかった」などの「クラスの雰囲気」に関連した記述であった。

教え方・授業内容	5 人
クラスの雰囲気	4 人
知識量	3 人

役に立ったと感じた理由についても聞いてみた。初級 1 では「学習の成果を日常生活で感じている (進歩の実感)」という回答が 6 人と一番多く、そのうち 3 人は聞く力の進歩、2 人は話

す力の進歩について言及していた。また、この授業を受けたことで「日本語を学び続けたいと思うようになった」や「今後の学習の基礎となった」といった今後への影響について触れたコメントも2件あった。

進歩の実感	6人
今後の学習への影響	2人
その他 ²⁶	3人

一方、初級2では「文法をよく理解できた」や「語彙が増えた」などの知識面での進歩に触れた記述がもっとも多かった。次に多かったのは「日本語が少し話せるようになった」や「会話を理解するのに役立った」という実用面に関するコメントであった。

言語知識の増強	6人
会話力・理解力の進歩	5人

②授業の難易度と予習の大変さ

次に「本授業は難しかったか」と「予習は大変だったか」の2点について同じく5段階で評価してもらった。逆転項目のため「強く不同意」が5、「強く同意」が1である。

表6 本授業の満足度と有用度

	初級1		初級2	
	難易度	大変さ	難易度	大変さ
5	0	1	1	3
4	4	7	2	7
3	4	2	3	1
2	2	1	5	0
1	1	0	0	0
平均	3.00	3.73	2.91	4.18

結果(表6)を見ると、初級1の学生たちは授業は「難しくなかった」あるいは「難しくも易しくもなかった」と感じ、予習についても大変とは感じていなかったようである。それに対し、初級2の学生たちは予習は大変ではなかったが、授業は「少し難しかった」と感じていたことがわかる。

③予習の効果と語彙量

「予習は授業の理解に役立ったか」と「語の量は適当だったか」についても聞いてみた。結果は表7のとおりで、「強く同意」が5、「強く不同意」が1である。

表7 本授業の満足度と有用度

	初級1		初級2	
	予習	語彙	予習	語彙
5	4	3	9	2
4	7	8	2	6
3	0	0	0	3
2	0	0	0	0
1	0	0	0	0
平均	4.36	4.27	2.91	4.18

初級1の学生も初級2の学生も予習が役に立ったと感じてくれたようである。初級1よりも初級2の方が「強く同意」が多いのは、授業内容の難しさ(表6)が影響したのかもしれない。また、語彙の量についても概ね適当だったようである。

④もっと勉強したかったこと

「もっと勉強したかったことは何か」と聞いてみたところ、初級1では語彙や漢字などの知識面に触れた学生が6人いた。次に多かったのが会話の練習で、中でも自分を自由に表現する時間を増やしてほしいというものであった。

語彙・漢字など	6人
会話の練習	4人
日本の文化	1人

語彙や漢字などの知識面を指摘する回答がもっとも多かったのは初級2も同様で5人いた。ただし、初級1では語彙が多かったのに対し、初級2では漢字が多かった点がやや異なる。その次に多かったのは、日常会話で役立つ表現で、具体的にはコンビニのレジや病院の電話予約などの日常会話や、丁寧形と普通形の使い分けなどであった。

語彙や漢字など	5人
日常会話で役立つ表現など	3人
日本の文化	1人

⑤ 提言・要望など

最後に今後に向けた提言・要望について聞いてみたところ、初級1・初級2ともに多かったのは「授業の期間と時間数を伸ばしてほしい」というものであった。その他では「漢字をもう少し」「日常生活で役立つ実用的な会話」「教師が日本語で話す時間」などがそれぞれ1～2件あった。授業の期間と時間数は筆者個人で決められることではないが、その他の意見については次学期以降の課題としたい。

8 評価Ⅱ：授業を見学した教員の感想

筆者の授業は「原則公開」としており、今年は現職の日本語教員が8人授業見学に来ている。そのうち6人をお願いして、本授業を見学して感じたことをレポートしてもらった。以下、その一部を①反転授業、②授業と教材、③学生たちの様子、④その他の4つに分けて紹介する²⁷。

教員A	日本語教育歴9ヶ月
教員B	日本語教育歴6ヶ月
教員C	日本語教育歴6ヶ月（3回見学）
教員D	日本語教育歴6年（ほぼ毎週見学）
教員E	日本語教育歴9年
教員F	他大学専任教員（2回見学）

① 反転授業について

予習先行型の授業にすることで、学習者が疑問・意欲を持って授業に臨むため、より深い理解ができることを目の前で感じた。【教員A】

学習者は教員の話をすぐに理解し、わからないところだけ質問する。反転授業でスムーズに授業が進んでいく。【教員B】

授業内は教員に質問も多くあり、文法上わからないことがあれば教員が適宜適切に答えていた。学習者がその後納得した表情で取り組んでいたのが印象的である。【教員D】

② 授業と教材について

その日の文型だけでなく、既習の文型をフルに活用して会話を促すようなハンドアウトを作っていて、学習者が自発的に多くの会話を生み出してとても楽しそうに会話をしていたのが印象的だった。【教員A】

ペアワークでは1枚のプリントだけで、学習者は楽しそうに会話を続ける。まるで魔法のようなプリントだと思った。こんな授業もあるんだということを知ることが出来て、良かった。【教員B】

学習者は概ね予習を完了して授業に参加しているようだった。予習をしてきている学習者

と、予習が足りない学習者とは少し授業についていけないレベルに差が感じられた。予習が足りなかった学習者は、次の授業では予習をしているようだった。【教員D】

学習者同士で日本語の練習をする際に、導入がスムーズでお互いにペアワークがすぐにできていた。【教員D】

③学生たちの様子について

回を重ねるごとに、学習者が勉強のペースにも、授業の雰囲気にも馴染んできて、楽しく学習しているようだった。【教員D】

学習者がタスクに対して自分で解答を考えて、口答で練習していたので、終盤の授業風景では日本語を積極的に話していた。【教員D】

学習者は受講したあと、日本での日常生活に役立てたい、日本の文化を理解したいと言う気持ちが深まっているように感じられた（実際そのように学習者が話していた）【教員D】

④その他（自身の授業への応用など）

特に印象深かった点は文型練習。これまで見たり実施したりしてきた授業は、教師が絵などのキューを出して進めるような教師主導の練習が主であったが、この授業は受講者同士のQA練習がメインだった。とても活発な雰囲気、教師も学習者一人ひとりをしっかりと見て回り、質問等にも対応していた。早速、自身の授業にも取り入れている。学習者同士の日本語での発話量も増えたように感じている。【教員E】

非漢字圏の学生に漢字を教えているが、多く

の学生が漢字の習得をあきらめたり、漢字に対して苦手意識を持って練習を中断してしまう。授業を見学したことで、漢字を正しく書くことよりも漢字を識別し、読めるようにすることに重点を置く方法が、学生の苦手意識を軽減する上で非常に有効であると感じた。来学期からは、このアプローチを取り入れて指導していく予定である。【教員F】

養成講座では、教師主導のドリル練習の方法を主に習っていたが、本授業での学生主体のドリル練習の方法を見て共感し、自分の授業（日本語学校・1クラス20人以上・アジア系の学生が主）でも実践してみた。評価すべき点としては、教師主導のドリルでは、個人の口のまわり具合をチェックしてあげる事ができず、全体コーラスの中でおそらく声を合わせられずもれていた学生が、学生主体のペア練習においては、個人のペースで発声できていたことが挙げられる。また、機械的な反復ではなく、考えて文法を組み立てることができていたと思われる。危惧される点としては、人数が多く学習意欲やレベルもまちまちなクラスにあって、ペア練習の時間がぐつぐつ時間になってしまっている学生がいること、文法を間違ったまま練習している学生を発見するのが困難なこと、発声せずに書くことに一生懸命になっている学生もいることなどがあげられる。加えて、週5人の教師に習っている学生にとって、教師ごとのスタイルに合わせるのが困難のようにも推察される。【教員C】

9 提言：地域の日本語教室にこそ反転授業を！

最初にも述べたように、本授業は留学生向け

のサービスとして行っている所謂「課外授業」であり、授業時間数は1学期30時間と少なく、単位も出ない。そのため、以前は途中で辞めてしまう学生が多く、学期の終盤には出席者がゼロという日も何度かあった。理由としては「学習意欲がそこまで高くはなかった」「途中で何度か休んだ結果、授業についていけなくなった」「ひらがなを覚えられなかった」などが考えられた。

一方、地域の日本語教室が恒常的に抱える問題として当時から時折耳にしていたのは「最初はたくさん来るがすぐにやめてしまう」や「レベルがバラバラでどう教えていいかわからない」といった声であった。置かれた環境は異なるものの、互いによく似た問題を抱えていたこともあり、本授業の改善策を検討するにあたっては、当初からその過程で得た知見や経験を何らかの形で地域の日本語教室への提言としてまとめたいと考えていた。それが本稿を執筆した理由の1つである。

地域の日本語教室で教える教員たちと接している感じるのは、目の前の外国人のために何かをしたいという熱意に溢れる一方で、先に述べた問題を週に1度2時間程度しかない授業内で、それも教員個人の努力と工夫によって解決しようとする人が少なくないという点である。しかし、それはどう考えても無理である。

例えば教科書である。表2に挙げた3冊は地域の日本語教室でもよく使われているが、これらを「120分×週1回×年40週」という（地域の日本語教室で一般的な）スケジュールで勉強した場合、一通り学び終えるのにどのくらい時間がかかるか考えてみてほしい。一番短い『げんき』でも2年半から3年、『みんなの日本語』なら4年弱、『できる日本語』は2年弱から4年数ヶ月である。それも「一度も休まず通い続け

たとして」である。これから日本で大きな不安を感じることなく暮らしていくために日本語を学ぼうとする人たちに対してこれはさすがに長すぎる。これではなかなか進歩を実感できず、途中で辞めてしまった（諦めてしまった）としても不思議ではない。学習者の気持ちを考えれば、半年でA1レベル、1年～1年半でA2レベルまで行きたいものである。しかし、それを教科書を変えることなく使い方を工夫することで実現するのは極めて難しい。学習内容を大胆に絞る（精査する）ことが必要不可欠であり、それが小山（2020）の執筆動機であった。

教え方についても同様である。4-1でも述べたように、積み上げ式の教授法では新たな学習はその課の新出語彙と文型を導入するところから始まる。しかし、そんなことをしては肝心の運用練習に十分な時間を割くことはできない。授業時間が限られている場合には「授業の役割」を見直すこと、即ち、「教室外で一人のできることは何か、教室内で他の学生や教員と一緒にすべきことは何か」と考えることが重要であろう。

これまで文型導入を授業内で行ってきたのは、英・中・韓以外の言語で書かれた文法解説書が入手困難だったからである。しかし、今は様々な言語で書かれたものが出版されており、Google 翻訳の精度もかなり上がっている²⁸。もはや文法など教師が教える必要はないのである。ゆえに、「地域の日本語教室にこそ反転授業を導入すべき」というのが筆者の主張である。

反転授業には4-2で述べた3つの利点のほかにもう1つ重要な利点（可能性）がある。それは学習者に能動的かつ主体的な学習姿勢を身につけさせるのに役立つという点である。繰り返しになるが、外国語は何の準備もせず、ふらっと教室にやってきて週に1度2時間勉強す

るだけで上達するようなものではない。学習者が自ら進んで学ぼうとしない限り、授業の仕方をどう工夫しようと、さして効果はないのである。ならば、予習を促すことで学び方を指導し、予習で浮かんだ疑問を持って教室に来るように仕向けることで受身な学習態度を変えさせることが重要であろう。その結果、「予習→授業→復習」という「学びのサイクル」を根付かせることができれば、教育効果が高まるだけでなく、途中でやめてしまう学習者を減らすことにもつながるのではないだろうか。

それでもなお「言ってもどうせやってこないから」とか、「学習者の母語の数だけ翻訳を用意するのは難しい」と消極的に捉える教員もいるであろう。そういう人たちには「他に何か有効な手立てがあれば、それを試せばよい。特に思いつかないのであれば、怖がらず思い切ってやってみることだ」と伝えたい。仮に失敗したとしても、その失敗は無駄にはならないであろうし、できない理由を探すより、できる方法を考える方がずっと生産的で、次に繋がると思うからである。

注

- 1 生活会話中心で語彙数を抑えた『まるごと』（国際交流基金：三修社）でさえ活動編の最初の2冊だけで70～100時間、理解編も合わせると150～200時間である。<https://marugoto.jp/f.go.jp/teacher/feature/>
- 2 国際交流基金（2017: 14）
- 3 『みんなの日本語』の文型数は『教え方の手引き』による。想定学習時間、語彙、漢字の3つは以下の公式サイトからの情報である。以下、サイトへのアクセス日は全て2024年12月31日である。
<https://www.3anet.co.jp/np/info-detail/169/>
<https://plus.3anet.co.jp/japanese-edu/koza004-04/>
<https://www.3anet.co.jp/np/books/2458/>
 『げんき』の想定学習時間については公式サイトでは200時間となっているが、著者の一人である大野（2017: 4）が「250時間程度を見込むのが妥当」と述べていることから、200～250時間とした。

<https://genki.japantimes.co.jp/about/about03>

文型の数は本冊の見出し、漢字は本冊の読み書き編からの情報で、語彙数は以下の公式サイトからの情報である。

<http://genki.japantimes.co.jp/site/faq.html>

『できる日本語』の想定学習時間は以下の公式サイトからの情報である。

http://www.dekirunihongo.jp/?page_id=169

文型の数は初級と中級の本冊の巻末にある「ポイント一覧」の見出しの数をカウントした。語彙については巻末の語彙リストに掲載された語数を筆者が目視で数えた。漢字は『漢字たまご』（初級・中級）で取り上げている漢字の数である。

- 4 各課の「単語」のページに記載されている見出し語を数え、「Additional Vocabulary」は除外した。
- 5 日本では外国人力士が良い例である。
- 6 名詞文よりも先に動詞文を先に教えたり、テ形（14課）と辞書形（18課）の提示順序を変えることは可能だが、名詞文よりも先にテ形を教えることは、「聞いてください」や「住んでいます」を定式表現として理屈抜きに覚えさせる場合を除いて不可能である。
- 7 2－1で示した例で言えば「映画」や「音楽」は共有語彙、「刺繍」は個別語彙である。
- 8 これには「ありがとう」や「おはよう」などの挨拶表現、数字、「これ、それ、あれ」などの代名詞も含まれる。詳細は小山（2020）を参照。
- 9 1行目は12ポイント、2行目と3行目は10ポイント。
- 10 語彙リストの表記の順番も学習の進捗とともに変えている。第3課までは左から「アルファベット表記→ひらがな表記→漢字仮名混じり表記」の順であるが、第4課からは図4のようにアルファベット表記とひらがな表記の順番を入れ替えた。また、第7課からはアルファベット表記が消え、ひらがな表記と漢字仮名混じり表記のみになっている。
- 11 変更点は、①「Vませんか」や「～へVに行きます」などのマス形を使った文型を初級2（第1週）で学習することにした点と、②「～Vたいです」（第6週）の過去形を第9週で導入することにした点の2つである。
- 12 「こんにちは」や「ありがとう」などの挨拶表現は文法学習とは直接関係ないため、現在はその多くを初日のオリエンテーションで紹介するにとどめている。
- 13 よって、動画は必ずしも必要ない。
- 14 <https://www.3anet.co.jp/np/info-detail/129/>（2024年

12月31日アクセス)

- 15 近年、新人教師向けに『みんなの日本語』や『げんき』の教え方を課ごとに詳しく具体的に示したサイトがさまざま作られているが、それらを見てもそのような順番になっている。
- 16 何人かの学生が授業の前日の昼休みに学生食堂でいっしょに予習しているのを何度か目撃したことがある。
- 17 正解は教師がどの順番で読み上げるかによって変わるため、1つ作れば何度でも使い回しができるという利点がある。
- 18 これも正解は決まっていないので、1つ作れば何度でも使い回すことができる。
- 19 既習者の4名はレベル的には初級1と初級2の間であったため、本人の希望もあり、特別に両方のクラスを受講した。
- 20 書くことに関しては学生たちに「自分の名前と出身地くらいはカタカナで書けるようにしよう」と伝えている。
- 21 Hiragana A-1 Self-Study Course の受講を義務付けている。
- 22 とはいえ、イラスト付きのスライドを使って答え合わせをすることで、それらの語彙と意味を無意識のうちに覚えてくれることを密かに期待している。
- 23 これには予習の確認の意味もある。
- 24 既習者の4人は初級2クラスも受講したため、授業評価は初級2について行った。
- 25 「ストレスを感じない教え方」「質問するのが怖くなかった」などの回答があった。
- 26 「その他」には「自分でももう少し勉強すればもっと上達できたと思う」や「理解という点では授業が少し簡単すぎると感じるがあった」などの課題を指摘するコメントが2件含まれる。
- 27 語彙と文体を統一した以外はほぼそのまま引用している。
- 28 2024年7月現在、132言語に対応している。

参考文献

- 大野 裕 (2017)「『げんき』が目指したもの」筑波大学 CEGLOC 日本語・日本事情遠隔教育拠点シンポジウム「日本語の教科書が目指すもの－教科書執筆者・活用者と語る－」配布資料.
- 国際交流基金 (2017)『JF 日本語教育スタンダード 利用者のためのガイドブック』国際交流基金.
- 小山 悟 (2020)「60時間で何を教え、習得させるのか? —九州大学大橋キャンパスにおける初級日本語クラスのデザイン—」『九州大学留学生センター紀要』28, 49-64, 九州大学留学生センター.
- 坂野永理・池田庸子・大野裕・品川恭子・渡嘉敷恭子 (2020)『初級日本語 げんき 1 第3版』The Japan Times.
- 坂野永理・池田庸子・大野裕・品川恭子・渡嘉敷恭子 (2020)『初級日本語 げんき 2 第3版』The Japan Times.
- 嶋田和子監修 (2011)『できる日本語 初級 本冊』アルク.
- 嶋田和子監修 (2012)『できる日本語 初中級 本冊』アルク.
- スリーエーネットワーク (2012)『みんなの日本語 初級 1 第2版 本冊』スリーエーネットワーク.
- スリーエーネットワーク (2013)『みんなの日本語 初級 2 第2版 本冊』スリーエーネットワーク.
- バーグマン, ジョナサン・サムズ, アーロン (2014)『反転授業』(山内祐平・大浦弘樹 監修, 上原裕美子 訳) オデッセイコミュニケーションズ.
- 山内博之 (2009)『プロフィクションシーから見た日本語教育文法』ひつじ書房.
- 渡部由紀子・角谷佳奈・左弥寿子・緒方由希子 (2023)『NIHONGO FUN & EASY 2nd Edition』アスク.

資料1 初級1で扱う文型と話題（確定版）

週	文型	話題
1	名詞文「～は～です」 ・助詞「の」 ・疑問文「Nですか」 ・疑問詞「何」「どこ」	自己紹介 「私は学生です」 「私は九州大学の学生です」 「私の趣味は旅行です」
2	これ・それ・あれ ・否定文「Nじゃないです」 ・疑問詞「だれ」「いくら」 ・疑問詞「何の」「だれの」 ・この ・その ・あの	買い物 「これは何ですか」 「これはいくらですか」 「これは何の本ですか」 「このかばんはいくらですか」
3	存在文 ・ここ ・そこ ・あそこ ・位置を表す語（「前」「上」など） ・「～は～にあります」 ・「～に～があります」	私の町・私の部屋 「ここは図書館です」 「駅はどこですか」 「駅の前に何がありますか」 「公園に誰がいますか」
4	動詞文Ⅰ（する動詞・移動動詞） ・否定文「Vません」 ・副詞（頻度） ・助詞「に」（曜日）	毎日の生活 「私は毎日散歩します」 「私はあまり掃除しません」 「私は土曜日に図書館へ行きます」
5	動詞文Ⅱ（他動詞・自動詞） ・助詞「に」「から」「まで」（時間） ・助詞「で」（場所） ・過去形「Vました・Vませんでした」	週末の出来事 「私は昨日6時に起きました」 「私は7時から9時まで散歩しました」 「私はうちで映画を見ました」
6	助詞 ・助詞「に」（到達点） ・助詞「と」（相手） ・助詞のまとめ ・Vたいです	週末の予定 「私は明日友達に会います」 「私は明日鈴木さんと映画を見ます」 「私は京都へ行きたいです」
7	イ形容詞 ・否定文「Aくないです」 ・副詞（程度） ・形容詞文Ⅰ「～は～がAです」 ・形容詞の接続Ⅰ（順接）	それは何？ 「それはすごく大きいです」 「それはあまり高くないです」
8	ナ形容詞 ・否定文「Aじゃないです」 ・名詞修飾 ・形容詞の接続Ⅱ（順接・逆説） ・形容詞文Ⅱ「～は～がAです」	家族・友達の紹介 「鈴木さんは親切な人です」 「お父さんはやさしくて、真面目です」 「お母さんは料理が上手です」
9	形容詞の過去形 ・形容詞文Ⅱ「～は～がA（過去形）」 ・助詞「で」（手段・方法） ・Vたかったです	旅行の感想 「少し寒かったです」 「沖縄は海がきれいでした」
10	比較 ・～は～よりAです ・～と～とどちらがAですか ・～のほうがAです ・～で～がいちばんAです	日本の地理 「東京と大阪とどちらが雨が多いですか」 「私の国は日本より暖かいです」 「日本より私の国のほうが暖かいです」 「九州でどこがいちばんきれいですか」

週	語彙	漢字	文字の導入
1	私、学生、会社員、先生、医者、公務員、警察官、趣味、出身、名前、本、日本語、大学、国、専門、仕事、映画、音楽、写真、読書、料理、旅行、何、どこ 【24語】	日本、九州、福岡、博多、天神	①あ行～か行 ②あ行～た行
2	これ、それ、あれ、この、その、あの、机、いす、かばん、財布、かさ、時計、辞書、英語、人、誰、いくら、1、2、3、4、5、6、7、8、9、10、100、1000、10000 【30語】	注、危、禁、止	①あ行～は行 ②あ行～や行
3	ここ、そこ、あそこ、うち、部屋、駅、公園、銀行、図書館、病院、郵便局、学校、コンビニ、スーパー、～屋、～さん、前、後ろ、隣、近く、上、下、中、右、左、あります、います 【28語】	時、日、月、年、分	①あ行～ん ②濁音
4	します、行きます、来ます、帰ります、運動、買い物、散歩、洗濯、掃除、勉強、今日、明日、毎日、よく、ときどき、あまり、ぜんぜん、月曜日、火曜日、水曜日、木曜日、金曜日、土曜日、日曜日、何曜日 【25語】	火、水、木、金、土	①長音 ②拗音
5	食べます、飲みます、読みます、見ます、聞きます、書きます（描きます）、話します、買います、起きます、寝ます、ごはん、パン、お茶、手紙、テレビ、友だち、昨日、朝、昼、夜、それから、～時、～分、何時、～半、少し、もう 【27語】	大、小、上、中、下	①促音
6	泳ぎます、遊びます、会います、乗ります、入ります、あげます、教えます、お風呂、食堂、昼ごはん、海、山、バス、新幹線、自転車、電話、箸、家族、子供、今晚、今週、先週、来週 【23語】	開、閉、階、口、男、女	①ア行～カ行 ②ア行～タ行
7	大きい、小さい、重い、軽い、高い、安い、長い、短い、いい、おいしい、おもしろい、赤い、青い、白い、黒い、黄色い、ポスト、店、会社、肉、魚、休み、天気、もの、どんな、すごく 【26語】	食、肉、魚、飲、茶、酒	①ア行～ハ行 ②ア行～ヤ行
8	かわいい、きれい、やさしい、親切、明るい、元気、大人しい、まじめ、好き、上手、静か、お父さん、お母さん、お兄さん、お姉さん、弟、妹、小学生、中学生、高校生、大学生、～に住んでいます、～で働いています、～で勉強しています、～歳、でも 【26語】	病、菌、薬、医、内、外	①ア行～ン ②濁音・長音・拗音
9	暑い、寒い、近い、遠い、多い、楽しい、便利、素敵、いっぱい、雨、自然、時間、町、車、電車、空港、温泉、お土産 【18語】	道、通、橋、駅、鉄、港	①特殊音
10	暖かい、涼しい、賑やか、安全、交通、人口、世界、川、食べ物、この中で、どちら、どれ、～人、～度、～年、～月 【16語】	東、西、南、北、右、左	

資料2 初級2で扱う文型と話題（確定版）

週	文型	話題
1	ます形 ・ Vませんか ・ Vましょう ・ ～へVに行きます／来ます／帰ります ・ ～ながら、～	休日の過ごし方 「私はよく美術館へ絵を見に行きます」 「公園で音楽を聞きながら、本を読みます」 「よかったら、今度一緒に行きませんか」
2	辞書形 ・ 五段動詞と一段動詞 ・ XはVることです ・ Vるのは～です ・ XはVるのが～です	子供の時の夢 「私の夢は学校の先生になることです」 「子供に勉強を教えるのは楽しいですから」 「絵を描くのが好きですから」
3	テ形Ⅰ ・ Vてください／Vしていただけませんか ・ Vています	私の親友 「その人もその会社で働いていました」 「今ロンドンの大学で絵の勉強をしています」
4	テ形Ⅱ ・ Vてもいいですか ・ Vてはいけません ・ Vて、～Vます	規則・マナー・タブー・迷信 「私の国では左手でご飯を食べてはいけません」 「私の国では18歳から飲んでもいいです」
5	ナイ形 ・ Vないでください ・ Vなければなりません ・ Vなくてもいいです	日本の学校 「日本では9年学校へ行かなければなりません」 「日本では教科書を買わなくてもいいです」
6	タ形Ⅰ ・ Vたことがあります ・ Vたり、Vたりします ・ Vてみます	日本での経験 「私は北海道へ行ったことがあります」 「海で泳いだり、遊んだりしたいです」 「一度登ってみたいです」
7	タ形Ⅱ ・ Vた／Vないほうがいいです ・ Vるといいです ・ Vたら／Vなら、～ます	助言・アドバイス 「ホテルは早く予約したほうがいいですよ」 「お土産は‘ハツ橋’を買うといいですよ」 「時間があったら、太宰府も行ってみてください」
8	可能形 ・ 可能文 ・ Vようになりました ・ Vなくなりました ・ Vようになりません	生活の変化 「日本語が少し話せるようになりました」 「朝早く起きられなくなりました」 「漢字はまだ書けるようになりません」
9	普通形Ⅰ ・ ～と思います	日本と日本人の印象 「日本へ来る前、日本は寒いと思っていました」 「今は私の国より暖かいと思っています」 「楽しい人が多いと思うようになりました」
10	普通形Ⅱ ・ ～とき、～ます ・ Vるとき／Vたとき ・ 連体修飾節	私の大切なもの 「私の大切なものは両親がくれた時計です」 「初めて読んだ時、すごく感動しました」

週	語彙	漢字
1	歩きます、考えます、作ります、取ります（撮ります）、働きます、メモ、お菓子、ジム、デパート、ドライブ、話、花火、晩御飯、日、美術館、ワイン、いっしょに、いつも、今度、週末、その後、毎朝、～や、よかったら 【24語】	私、学、生、国、名、前、住
2	集めます、歌います、助けます、使います、なります、弾きます、待ちます、シェフ、将来、生活、歌、絵、お酒、外国、画家、切手、スポーツ、病気、ピアノ、ピアニスト、夢、大変、難しい、有名、～の時 【25語】	行、来、読、話、聞、書、見
3	住みます、呼びます、やります、勤めます、留学、お弁当、片仮名、教科書、教室、市役所、親友、農家、野菜、その時、もう少し、ゆっくり、～人、～前 【18語】	今、先、毎、週
4	飼います、吸います、捨てます、止めます（泊めます）、朝御飯、声、コピー、ゴミ、煙草、ペット、ボール、ロビー、冷たい、大丈夫、～なら 【15語】	買、友、高、安、円、何
5	払います、返します、出します、覚えます、忘れます、着ます、心配、お金、薬、高校、宿題、小学校、制服、中学校、トイレ、全部、無料、早く、～までに 【19語】	山、川、田、人、子、車、目、門
6	踊ります、習います、登ります、生け花、お寺、着物、景色、桜、スキー、大福、夏、富士山、抹茶、力士、ところ、甘い、気持ちいい、苦い、速い（早い）、一度、じゃあ、ぜひ、まだ～ません 【23語】	少、入、出、本、森、自
7	落とします、着きます、泊まります、持って行きます、休みます、借ります、観光、予約、秋、上着、お勧め、交番、寿司、ネット、ホテル、祭り、ラーメン、すぐ、あと、～という 【21語】	明、休、体、好、間、間
8	引きます、カード、風邪、漢字、新聞、上手に、いくつ、いつ、～か、～ぐらい、自分で、どのくらい、なかなか～ない、何でも、～メートル 【15語】	言、語、試、詩、海、泳、池、湖、洗
9	思います、授業、地下鉄、物価、昔、有料、今、多分、何も、初め 【10語】	雨、雪、電、雲、字、家、室、寒
10	挙げます、言います、気をつけます、くれます、もらいます、渡ります、感動、合格、答え、手、道、理由、両親、忙しい、嬉しい、寂しい、大切、暇、大切に、たくさん、できるだけ、どう、初めて、まだ～ます、おはよう（ございます）、おやすみなさい、～回 【27語】	思、急、必、意、忘、感、近、遠、速、遅

